

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（11）

— 個人ローンの推進動向 —

ポイント

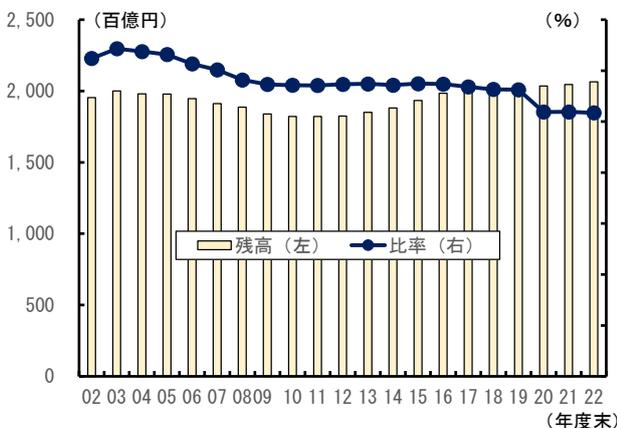
- 2022年度末の信用金庫の個人ローン残高は、前期比0.9%、1,958億円増加の20兆6,653億円となり、2年連続で前年度末を上回った。
- 個人ローンの推進では、近年、非対面チャネルの活用を掲げる信用金庫が増えており、対面と非対面の連携強化が進んでいる。
- 推進時の検討課題は、①取組目的の確認、②チャネルおよび商品の拡充、③採算の確保策などがあり、整合性の取れた推進が必要と考えられる。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、非対面チャネルを強化すると同時に取扱窓口をローンセンターに集約する信用金庫があった。

(注) 本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

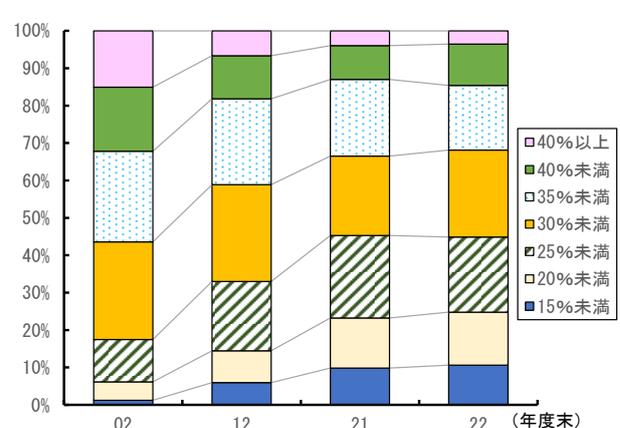
1. 個人ローン残高の推移

2022年度末の信用金庫の個人ローン残高は、住宅ローンの残高増加（1,956億円増）を牽引役に前期比0.9%、1,958億円増加の20兆6,653億円となり、過去最高を更新した（図表1）。引き続き個人ローン推進を重視する信用金庫は多いものの、競合金融機関との金利競争で採算確保が問題となっている。2022年度末の個人ローン比率は25.8%となり、また信用金庫別でみると、①20%未満が63金庫（構成比24.8%）、②20%以上30%未満が110金庫（同43.3%）、③30%以上は81金庫（同31.8%）であった（図表2）。2002年度末と比べると、40%以上の割合が低下している（同15.0%→同3.5%）。

(図表1) 個人ローン残高の推移



(図表2) 信用金庫別の個人ローン比率（構成比）



(備考) 1. 本稿では他業態との合併等を考慮していない。

2. 図表1から3まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 主な推進策

個人ローンは定型的な商品が中心のため、競合金融機関との差別化が難しく金利競争に陥りやすい。こうした状況下、多くの信用金庫が非対面チャネルを拡充し、低金利と利便性を求める顧客対応ニーズに応えと同時に、個人ローンの採算改善にも取り組んでいる。足元ではもう一步進めて、営業店から個人ローン業務を切り離す動きが活発である。

3. 推進時の留意点

推進時の検討課題は、①取組目的の確認、②チャネルおよび商品の拡充、③採算の確保策などで、整合性の取れた推進が必要と考えられる。『低金利・非対面に魅力を感じる個人顧客に対面セールスによる取引深耕が機能するのか?』など、庫内で十分に議論する必要がある。個人ローン単品での採算確保が難しいなか、複合取引で採算を確保するのか・それともコスト引下げを徹底するのかなども検討ポイントとなろう。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表3のとおりである¹。

(図表3) 個人ローンの推進に関する主なコメント (カードローンの推進について抜粋)

- 当金庫は、住宅ローンを推進するうえで、愚直にカードローンのセットを徹底する。これによって残高が伸びている。
- 県下統一キャンペーンの実施など、当金庫はカードローンの推進に熱心である。コロナが落ち着き個人消費も活発化してきたので、再積上げに期待する。
- 当金庫は昔ながらの、とにかく『バラ撒いて、利用を待つ。』スタイルでカードローンを推進している。目先の利用率は低いが、中長期でみると意外に顧客の利用率は高い。
- カードローンの目標を渉外担当者から外し、テラーの目標に設定した。テラーは来店客に加え、純預金先への電話セールスなどを実施している。
- 若手や女性渉外担当者の役割を職域セールスに絞り、まずはカードローンの推進キャンペーンを実施した。
- カードローンは非対面チャネルを受け皿にし、またネット広告中心に推進している。人手をかけない代わりに金利は競合に負けない水準とする必要がある。
- これまで非対面のカードローンに力を入れてきたが、最近はカードローンよりフリーローンに注力している。
- 当金庫は、カードローンではなくフリーローンや目的ローンを推進しており、またカードローンをフリーローンでまとめる提案なども実施している。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある(信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお応えしていません)。